

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.11/8(月)～R3.11/14(日) 令和3年第45週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	39人	28人	-	-
	② 対人口10万人	2.5人	1.8人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.39	1.56	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		36%	39%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%）＝陽性者数÷検査件数		1.1%	1.0%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しております。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しております。

検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いております。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		11/14現在	11/7現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	28人	20人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	5.9%	4.2%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	4人	4人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	5.8%	5.8%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	42人	30人	-	-
	⑨ 対人口10万人	2.7人	1.9人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	11/14現在	11/7現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) =入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	66.7%	66.7%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果^{※5} (懸念される変異株 (Variant of Concern : VOC^{※6}) の検出状況)

※5 川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載

※6 国立感染症研究所が分類した「主に感染性や重篤度が増す・ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株」を指す。

懸念される変異株 : VOC	直近1週間 11/8 ~ 11/14	前週 11/1 ~ 11/7	累計 3/11 ~ 11/14
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	157件	0件	279件

L452Rスクリーニング検査終了並びにゲノム解析による監視体制の強化について

令和3年10月25日付け厚生労働省通知に基づき、L452Rスクリーニング検査は終了となりました。

全国的にデルタ株に置き換わり、単一変異を探知する変異ウイルス PCR 検査による監視の意義が限定的であることから、今後は様々な変異ウイルスの発生動向を広く監視するため、ゲノム解析を中心とした監視体制へと移行することとなりました。

なお、これまでは国立感染症研究所が中心となってゲノム解析を実施しておりましたが、自治体主体のゲノム体制を強化する必要があることから、令和3年10月からは川崎市健康安全研究所においてもゲノム解析を実施しております。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、いわゆる第5波について、感染の状況は第33週（8月16日～22日）をピークとし、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして、第43週（10月25日～31日）まで減少が続きましました。第44週、第45週（11月8日～14日：今週）は若干数値が増加した項目がありますが、全体としては落ち着いている状況です。

ステージ分類は第30週（7月26日～8月1日）から第36週（9月6日～9月12日）まで7週間連続して全てがステージⅣとなっていました。順次ステージ解消へとすすみ、第41・42週と2週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となりました。第43週は、感染経路不明割合がステージⅣとなりましたが、第44週は再び6項目全てがステージⅣ、Ⅲ解消となり、第45週（今週）も同様にステージⅣ、Ⅲ解消となり、ステージⅣ、Ⅲのない状況が2週連続しています。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第40週に88人と二桁になり、その後58人→36人→18人と10週続けて減少し今年最も低い数値となりましたが、第44週28人、第45週（今週）39人と若干の増加となっています。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第39週に9.0人と1桁台となり、その後3.8人→2.3人→1.2人と10週続けて減少し、今年最も低い数値となりましたが、第44週1.8人、第45週（今週）2.5人と若干の増加になっています。ステージ分類は第39～45週（今週）と7週連続してステージⅢ解消となっています。
- ③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進みました。第40週から減少幅が小さくなりましたが、第40週0.64から、0.66→0.62→0.50と減少しました。第44週は1.56、第45週（今週）は1.39と2週連続して1.0を上回っています。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）をピークに減少に転じ、第41週に47%となり、23週連続でステージⅢ・Ⅳ相当（50%以上）であったステージ分類は、24週ぶりにステージⅢ解消となりました。第42週も44%と減少しましたが、第43週は89%と上昇してステージⅣとなりました。第44週は39%と減少し再びステージⅢ解消となり、第45週（今週）も36%と減少し、2週連続してステージⅢ解消が続いています。ただし、新規感染者数が非常に少なくなった中での調査のため、今後も変動しやすい数値であると考えています。
- ⑤ 検査陽性率は、第32週に54.9%と急上昇しました。この検査陽性率の急上昇については、感染の状況の表の※3でご説明してきたところです。本項目につきましては、算定方法が34週から異なったため連続性が失われますが、新算出方法では第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第41週2.0%、第42週1.3%、第43週は0.5%とさらに減少が続いた後、第44週1.0%、第45週（今週）1.1%と、若干数値の増加が見られました。ステージ分類では第38週まではステージⅣであり、旧算定方法を含み12週連続してステージⅣ相当（10%以上）となっていました。第39～第45週（今週）と7週連続してステージⅢ（5%以上）解消となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日11.14現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第34週（8月23日～29日）286人をピークに減少が進み、第39週に2桁台64人となり、第41週25人、第42週15人、第43週は10人と9週間連続で減少しましたが、第44週20人、第45週（今週）28人と若干増加しています。確保病床数は第24週の241床から徐々に増床が続き、第36週には455床、第44週に22床増加となり、現在計477床となっています。

したがって、病床使用率は異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第33週（8月16日～22日）93.9%をピークに減少に進み、第40週から1桁台の8.6%となり、第41週6.8%、第42週4.1%、第43週2.1%と10週連続して減少しました。第44週は、病床数は増加したものの入院患者数も

増加したため病床使用率は4.2%と増加し、第45週（今週）5.9%と若干増加していますが、ステージ分類ではステージⅢ以下のままで、第39～45週（今週）と7週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑦ 重症入院患者数は第34週（8月23日～29日）68人をピークに減少が進み、第40週に1桁台の8人となり、第41週4人と7週連続して減少しました。第42週及び第43週は5人、第44週・第45週（今週）は4人と、7週連続して1桁台のままとなっています。重症者の確保病床は第31週の30床から徐々に増床が続き、第36週には66床、第44週に69床となりました。したがって重症病床使用率も入院病床使用率と同様に異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第33週（8月16日～22日）の146.7%をピークに減少傾向となり、第36週に2桁台の72.7%となり、第41週には1桁台の6.1%となりました。第42週および第43週は7.6%でしたが、第44週は増床もあったため5.8%と減少し、第45週（今週）も5.8%のままとなっています。ステージ分類ではステージⅣ（50%以上）が7週連続した後、第37週、第38週がステージⅢ（20%以上）、そして第39～45週（今週）と7週連続してステージⅢ解消となっています。
- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第33週（8月16日～22日）4143人をピークとして減少が進み、第38週に478人と3桁台、第41週に73人と2桁台となり、第42週41人、第43週27人と9週連続して減少が続きましたが、第44週30人、第45週（今週）42人と若干増加となっています。
- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第33週（8月16日～22日）269.0人をピークに減少が進み、第37週74.3人と2桁台、第40週6.9人と1桁台となり、第41週4.7人、第42週2.7人、第43週1.8人と10週連続して減少しましたが、第44週1.9人、第45週2.7人と増加しています。ステージ分類としては、第39～45週（今週）と7週連続してステージⅣ・Ⅲ以下となっています。

<変異ウイルス検出状況>

L452Rスクリーニング検査については、全国的にデルタ株に置き換わったことから、令和3年10月25日付け厚生労働省通知に基づきL452Rスクリーニング検査は終了となり、本モニタリングでも記載も終了としました。今後は様々な変異ウイルスの発生动向を広く監視するため、ゲノム解析を中心とした監視体制へと移行することとなりました。川崎市健康安全研究所においても令和3年10月からゲノム解析を実施しております。

本市におきましては、今回のいわゆる第5波において新規陽性者数は第33週（8月16日～22日）をピークに減少が続き、第37週は1000人以下、第38週は500人以下、第39週は100人台、第40週は2桁の88人となり、第41週58人、第42週36人、第43週は18人と、本年最低値を4週連続して更新しましたが、第43週28人、第45週（今週）は39人と、市内でのクラスター発生の影響を受け若干の増加が見られました。医療提供体制等の負荷のピークは第34週（8月23日～29日）であり、確保病床数、重症患者確保病床数の増加と相まって状況は第39週から第43週まで減少が続き、第44週～45週（今週）は若干の数値の変動はありますが、ほぼ落ちついた状態となっています。

ステージ分類は第30週（7月26日～8月1日）から第36週（9月6日～9月12日）まで7週間連続してすべてがステージⅣとなっていました。順次ステージ解消へとすすみ、第41週～第42週と2週連続してステージⅣ・Ⅲ解消となりました。第43週は、感染経路不明割合がステージⅣとなりましたが、第44週は再び6項目全てがステージⅣ、Ⅲ解消となり、第45週（今週）も同様にステージⅣ、Ⅲ解消であり、ステージⅣ、Ⅲのない状況が2週連続しています。

10月1日をもって神奈川県も緊急事態宣言対象地域から解除となったことに伴い、本市も緊急事態宣言

地域から解除されました。このところの明確な新規陽性者数、入院数、重症患者数の減少は、市民の皆様のご理解ご協力の賜物です。これまでの不安はだいぶ解消されてきていると思いますが、安心が油断となり注意が緩んでしまうと再びウイルスが戻ってくる可能性があります。この2週間ほどは下げ止まりといった状態になっていますが、入院医療機関などは通常の機能に戻りつつあります。市内からウイルスがすっかり消え去ったというわけではないので、基本的な感染対策は続け、リスクの高い行動には気を付けながら、日常生活がさらに回復できるよう、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

外での飲食やどちらかへお出かけになる機会も増えてくると思いますが、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされますようお願いいたします。